

Watching Carefully

取材・文／竹中 聡（本誌） 撮影／遠藤基成

Soundの種類。Eventの現実。

Tranceの先に見るものは、何か？

Drugsの嘘。Violenceの誤解。

パブリックイメージをひっくり返そう。

「peäcE」 4th Anniversary @LAB.TRIBE

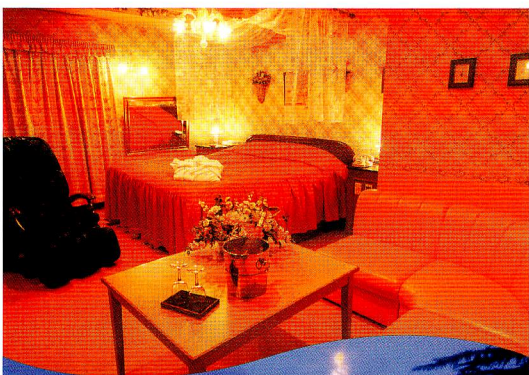
IDチェックは当然。自今のクラブシーンのセキュリティは、さらにシビアになるだろう。それにしても、今回はやけに厳しい。「トランスは厳しいんです。『トランス＝ドラッグ＆バイオレンス』というイメージがつきすぎた。でもそれはほんの一部が生んだ結果と、音楽性に関する誤解なんです。京都はHIP HOPが安定している街なので、ブルー・アイド・サウンドは余計に苦戦しますね」。そう説明するDJ JUN。事実、曲解されたパブリックイメージに引きずられて、モラルのない人間が増えすぎた。「これ以上続けても未来がない」。自分が信じたサウンドとイベントであり、これまで4年間・44回にわたって同イベントを重ねてきたが、昨年末に休止を決めた。今宵は約半年ぶりとなる。

場内に満ちるマシンサウンド。その音から想起するものは血管を疾走する血液のドライブ感であり、ドンッドンっというバスドラムの音は心臓の鼓動を思わせる。「その通りです。血液のドライブ感とか、心拍音とか、そういう表現が正しいと思う」。血流に、心音。リビドーか、カルマか。呼び方はどうでも良い。「TRANCE EVENT」の中にあるのは、機械ではなく血の通った人間、いや動物であるが故に持つ脈動だ。

およそイベントと名の付くところでは、オーガナイザーも、会場も、そしてオーディエンスも、ハッピーだけを望んでいる。夏フェスにもルールはあるし、オーディエンス同士が解けあうことでよしくやっている。騒げりゃいい？ 否。キマりゃいい？ それも否。否、否、否。ケミカルの力を借りている輩は、自分たちの居場所をただただ狭くしているだけなのだ。折しも会場となるクラブ側に横のつながりが構築されている今、無責任なオーディエンスのルール違反は、一人だけの話、一会場だけの話では済まなくなっている。

「JUNIOR VASQUEZ」は、MISIAのリミックスを手がけた人物である。「DJ TIEST」は、先のアテネ五輪の開会式で、選手団の入場行進を史上初となるDJプレイで務めた人物である。その彼と並び称される当代No.1 DJの呼び声高い「Paul van Dyk」らも含めて、彼らはトランス・ラヴァーズに支持されている、立派な認知度を得たワールドワイドなDJだ。

確かに京都の町場イベントと言えばHIP HOPや木屋町のバー主催がお馴染み、かもしれない。だが周年を誇るのは、彼らばかりじゃない。この街のバリエーションは、そんなに浅いものじゃない。誤解を解き、正しい知識を持てば、「夜に起きる幸せな出来事の可能性」は、もっともっとたくさんになる。同イベントは、その代表的な例であろうとしているのだ。



全室に浴室TV・ジェットバス・アクアライトが完備され、フルーツ湯やミルク湯が無料でレンタルできる。そんな充実のバスタイムをこれからはかわいいバスタックがお出迎え!

ホテルのニーズは、ブライスをさることながら、より居心地良く、長く滞在できる時代に、「チャペル シンデレラ」では、シンプルなお設備、一般のレストランにもヒケを取らないオリジナルメニュー・etc...で「飽きない」サービスを提供してくれる。さらに京都エリアトップクラスのサービスタイムで、「時間を気にしないシンデレラ」なってしまうのだ。



平日の18:00~21:00は、ランチバーは特別メニューが何と2品まで無料!!

ホテル チャペルシンデレラ

京阪三条から徒歩10分

- 京都市左京区粟田口鳥居町55-2
- P24台完備
- 地下鉄東西線蹴上駅東山駅下車徒歩5分



TEL.075-762-0781

<http://chapel-hotel.co.jp>

【宿泊】7340~12170円 【休憩】3140~5240円 【延長】1040~1210円
 【サービスタイム】4190~5770円
 1部 6:00~18:00 (フリータイム) ※土日祝 祝前日 6:00~16:00
 2部 15:00~22:00 (フリータイム) ※土日祝 祝前日は未実施
 【シンデレラタイム】 4190~5770円
 20:00~入室より2時間 (最終ご利用時間24:00)
 ※土日祝 祝前日 15:00~19:00入室より3時間
 いずれも平日料金。金・土・日祝は料金UPあり

DISCOUNT COUPON HOTEL Chapel Cinderella

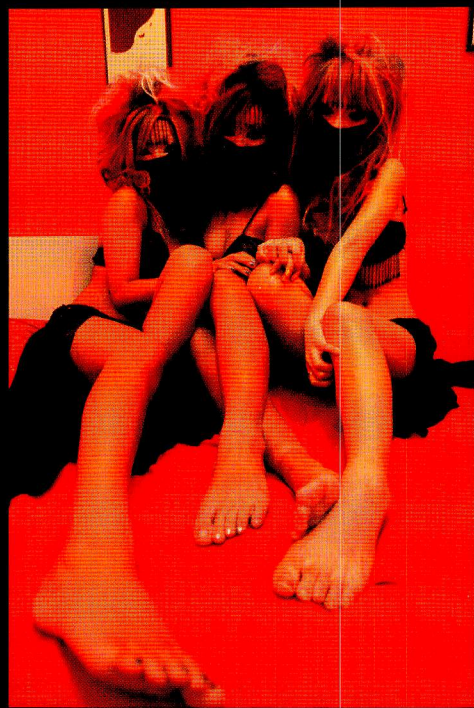
サービスタイム シンデレラタイム ご休憩 **¥1000 off** ご宿泊 **¥1500 off**

※他の割引サービス、メンバーズカード等との併用はできません。
 ※クーポンは入室前にフロントにお渡しください。
 ※フロントの最大のお客さまの都合によりご利用できません。ご了承ください。
 ※土・祝前日、及び特別期間中のご宿泊には使用できません。有効期限 2006年10月31日まで

エリア最長級のロングサービスタイム 時間を気にせず、シンデレラ

▶トランス・イベントには不可欠なフロアの上げ役、ダンサーたち。全員京都在住の「Bootilicious」はなんとというか、オリエンタルな感じ?で、ハードに踊っていた。別名DJ JUNの「喜ばせ組」

▼ミドルティーンでDJデビューしたというオーガナイザーのDJ JUN。アナログレコードの蒐集家を父に持ち、N.Y.ハードハウスなどクラブサウンドに造詣も深い、京都が誇るDJの一人だ。「今月の15日に『peacE Vol.46』をLAB.TRIBEでやります。お願い事とか、これらについてとか、『<http://www.kiss-of-life.net>』に書いてますんで、覗いて下さい。チケットは『LAB.TRIBE』木屋町の『SHOT BAR peacE』で販売中なのだが、そのバーは同イベントが誕生させた「イベントありき」のバーだ



▶文化的に見れば、「エロカッコいい」と言われるスタイルは、このトランスのコスチュームから生まれたのだとか。「ピンヒールで踊るから1ステーションで2kgくらい痩せることもある」と、ダンサー「Jesus Christ」のふたり

▶「トランスって、DNAの二重らせんって間が持っているから、歌も言葉も要らないんですよ」と、まあ立派なコメントの林佳秀さんはDJにしてイベントオーガナイザーでもあつた岡田万利佳さん。何かこう、写真撮られ慣れてはりますよね?



▲カップルキャッチ二組目。と思ったら左のericaさんはアキラさんの妹君でした。「♥サイケ、っていうか『peacE』のファンなんで」ってのは血ですかね。「汗かくならこのイベントっすね」と彼氏のyukiさん。お仕事とはび職

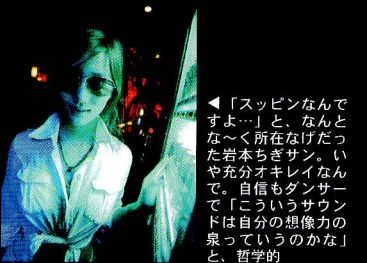


▶「僕たちのイベント名『peacE』の『a』の上に付いている3つの点は『オーディエンス』『ハコ』そして僕たち『オーガナイザー』を均等に表したもだから、「二カ一両得」みたいな考え方も、賛成ですわね」

▼機械的なサウンドの中にも人が奏でるギターやのチョーキング音が、ともすれば涙を誘うメロディを織り込んでいる。そもそもDJは口ポットじゃないのだ。血が駆け上がり、みなぎるパッションを演出する



▲ヒロコちゃんとななちゃん(左)とはかく同イベントの再開を待ちわびていたふたり。「上手い、格好いい、優しい。音がどうこうとかじゃなくてJUNのファン」だそうです



▶「スッピンなんてすよ〜」と、なんとなく所在げだった岩本ちぎさん。いや充分オキレイなんです。自信もダンスで「こういうサウンドは自分の想像力の泉っていうのかな」と、哲学的

▶「基本的にサイケが好きやね」と一言。トランス=子供の集いじゃないというのは、彼のようなオーディエンスを見れば解るのだ。人材派遣会社にお勤めのアキラさん。エリさんと共に